

見えてきた「冷戦」後の世界

米ソ大国の世界支配から「地域共同体」へ

1989年、米ソの冷戦が終結し、15年経った2004年の時点で加藤節という方は丸山真男の冷戦論を引用した後「冷戦後の世界は、はるかに複雑で解りにくい構造をもつ。その複雑な世界を理解する豊かな言葉をまだもちえていないことにある。」と「同時代史考」で述べていた。さらに10年過ぎた今日、米ソが世界を牛耳っていた国際社会の枠組みに変わる新しい秩序は見えてきたのだろうか。魅力ある学習テーマだと思えます。

地球儀を廻して気がつくのは冷戦終結後、三つの地域で新しい「共同体」づくりが急速に進んでいます。三つの地域とは欧州連合（EU・27か国）、東南アジア諸国連合（ASEAN・10か国）、中南米カリブ海諸国連合（CELAC・33か国）です。

<その背景は米ソ冷戦対決にあります>

1945年第二次大戦の終戦処理一特にドイツが占領した東欧諸国の処理一を巡って米英とソ連の間で意見の食い違いから全面的な対立関係に入りその後「冷戦」に入ります。

冷戦はエスカレートし政治的には「資本主義か共産主義」、軍事的には「NATOかワルシャワ機構か」、経済的には「IMF体制かコメコン体制化」かで両陣営に分かれ全面対立の国際社会の枠組みが出来上がります。米ソ両大国の愚は核弾頭6万発を所有するという核軍拡競争で頂点に達します。半世紀に及ぶ「冷戦」は89年のソ連崩壊とアメリカの経済破綻で終わります。

<「冷戦」終結が世界にもたらしたもの>

単独で覇者になったアメリカも世界を支配する力量はありません。ソ連あつての二分化した世界支配だったのです。一方、冷戦時代は東西両陣営にくみした国々は頭目のアメリカとソ連に逆らうことが出来ませんでした。平和・自由・民主主義について自主的な行動が取れず米ソ二大国に任せるしかありませんでした。また非同盟諸国も米ソの思惑から逃れられませんでした。

大国米ソから身柄を解放された各国は「自分たちのことは自分たちで解決していくほかにない」という道に進むしかありません。米ソ大国の世界支配の後には小国が対等平等で自分たちの関係した地域で政治・経済・文化についてそれぞれ違いがあっても一緒に「共同体」をつくっていく必然性があつたのです。それはまたグローバル化が進む世界にあつて「地域主義」が有効性を発揮できるかどうかの歴史的实验が始まったことを意味しています。

す。3つの地域には冷戦時代からすでにその動きが芽生え、育っていました。このことがアフリカ、中東地域と違うところです。

<3つの地域の特徴>

それぞれの地域は言語・宗教・経済格差・政治体制・歴史的な条件などばらばで国内事情でも多くの問題点をそれぞれ抱えています。にも拘らず「戦争を未然に防ぐための話し合い、平和で安心して少しでも豊かな暮らしを求め、お互いに文化的な交流を深めていく」というごく人間として自然な要求が機動力になっています。安保条約にしがみついて日本国憲法を形骸化している間にこれらの地域では平和憲法を先取りしているのです。

欧州は第1次、第2次世界大戦を起こしました。「冷戦」激化で第3次大戦勃発の危機から独仏は戦争に必要な鉄と石炭の共同で管理するための「欧州石炭・鉄鋼共同体」を1952年に発足させます。その後58年に欧州経済共同体（EEC）をつくります。

このような下地があればこそ、冷戦終了後統一通貨の発足（2002年）そして国家連合体としての欧州連合（EU27か国）がつけられました。最大の特徴は加盟国の対等平等な「成熟した」民主主義の運営にあります。

東南アジアでは、冷戦時代に植民地解放闘争・中国革命という世界史的な変革の激動を経験しますが決定的な特徴はベトナム戦争の影響です。非人道的なダイオキシン大散布の「枯葉作戦」、国力30分の1のベトナムに勝てなかった米国。米軍に頼っていた国を目覚めさせます。東南アジアから米軍基地をなくします。ベトナム戦争中に反共軍事同盟として5か国で発足したASEANはベトナム戦争が終わった1975年の翌年、東南アジア友好協力条約（TAC）をつくり反共から平和友好樹立に変身します。そしてベトナム、カンボジアの加盟でASEAN10か国になります。

中南米・カリブ海地域は第1次、2次世界大戦の戦禍がなかったこと。そしてアメリカの裏庭（植民地）であったことです。保守層・軍部を操りアメリカ企業に利潤をもたらす支配に人民は立ちあがります。それは1959年のキューバ武力革命から72年のチリ人民政府連合の成功と挫折、79年のニカラグア革命、そして98年にベネゼエラから始まった一連の変革の波と続きます。変革の特徴はキューバ革命の武力闘争主義から選挙による平和闘争への転換です。ニカラグアの武力闘争から平和闘争への転換は極めて教訓的です。コンタドーラ・グループによるニカラグア内戦和平協定の成立。これを土台の18か国によるリオ・グループがつけられカリブ海の代表も参加してきます。そして2011年アメリカ、カナダを除く南北アメリカ大陸のすべての国々がさんさすCELAC結成に繋がっていきました。

アメリカを知ろう

ベンジャミン・フランクリン

『貧しきリチャードの暦』

1706年ボストンに生まれたベンジャミン・フランクリンは中学生の教科書では雷が電気であることを証明したタコ上げの写真、高校生の教科書ではアメリカ独立宣言の起草委員として知られ、一般には『福翁自伝』と並び『フランクリン自伝』が有名です。この自伝は明治時代に盛んに読まれたという。正岡子規も病床で読み「貧乏なる植字職員のフランクリンが・・・箸々として成功して行く所は、何とも言われぬ面白さがあった。」と言う。

17歳で印刷工になり苦勞して身を立てたフランクリンは26歳の時に『貧しきリチャードの暦』（カレンダー）を出します。

当時植民地の家庭には聖書と暦しかなかったといひます。この暦の余白に格言・諺・逸話などを記して生活の指針にしていたといひます。日本にも戦前からあり戦後の間もない時期までよく部屋にかけられてありました。以下いくつか格言を記してみます。

- 「早寝早起き、健康のもと、
財産を増やし、知恵を増す」
- 「天は自ら助くるものを助く」
- 「今日の1日は明日の2日」
- 「軽い財布、重い心」
- 「寝ている狐は一羽の鳥も捕えない」
- 「必要のないものを買えば、
まもなく必要なものを売らなければならない」
- 「生きるために食ひ、
食うために生きるのではない」
- 「酒に女、賭博にべてん、
財産瘦せて欲だけつものる」
- 「道楽一つの金で、子供二人育つ」
- 「塵もつもれば山となる」
- 「わずかな出銭に気をつけよ。
小さな漏れ口が大きな船を沈める」
- 「仕事を追い、仕事に追われるな」

アメリカ建国時の節制の徳と勤勉実直なピューリタン精神が読み取れます。日本人の勤勉な国民性は世界に名だたるものです。そんなところから親しみがもたれ日本の暦にも好まれて使われたのではないのでしょうか。

私は憲法9条を守ります、 また アメリカの戦争に協力参加します。 安倍首相

6月15日安倍首相は憲法解釈を変えて集団的自衛権の行使を容認する記者会見を行なった。曰くその1 「年間1800万人の日本人が海外旅行する。そして突然紛争が起きる。たまたま同盟国・アメリカの舟が日本人を救助してくれた。この船が攻撃されたとき日本の自衛隊は何も手助けできない。これが現在の憲法解釈です。」

また、「私、総理大臣は、日本国政府は自衛隊がアメリカの戦争に協力できるよう憲法を変える責務がある。それが集団的自衛権行使の容認です。」と。曰くその2 「私は自衛隊が他国との戦闘に参加することは決してありません。憲法が掲げる平和主義を今後も守りにいていきます。」と。

これが一国の総理の話ではあまりにもお粗末です。

起こりえない事を針小棒大に大言し国民を騙す手口

まったく起こりえないことを勝手に想像し道理に合わないことを言いまくって平和憲法の解釈を変えようとしています。

総理にお伺いします。①海外旅行は日本人だけではありません。「突然起こる紛争」のときその場にいるのは日本人だけなのでしょうか。

②首相は中国を仮想敵国にして同盟国アメリカを引き合いにしているようですが、同盟国でないフランスやロシアの舟だったらどうするのでしょうか。同盟国でない国だったら集団的自衛権の行使になりません。その場合にも憲法解釈を変更するのでしょうか。

③たまたまアメリカの舟がアメリカの民間人で満載のとき日本人を乗せることができない。このような場合アメリカは同盟国だからといってアメリカ人を紛争地に降ろし日本人を船に乗せてくれるのでしょうか。

起こりもしないことを針小棒大に大言する手口はこれまで何度もありました。100万のソ連軍が北海道に上陸してくる。そんなことを想定し地雷100万個をつくりました。50トンもある90式戦車も大量につくりました。すべては税金のムダづかいでした。また、北朝鮮が万が一、万々が一攻めて来たらどうすると危機感を煽りマスコミ挙げて大騒ぎし国是であった自衛隊の「専守防衛」を投げ捨てました。北朝鮮が日本に攻撃してくる。こんなことどこから出てきたのでしょうかアジアの人々の笑いものになりました。最近では中国を仮想敵国にして「抑止力」は必要と日米同盟の強化に躍起になっています。しかし当のアメリカは日米同盟から米中同盟に軸足を移しています。中国のアメリカ連邦債の保有高は

1兆2700億ドルで日本の比ではありません。米中貿易額も飛躍的に伸び「経済運命共同体」にあり双方とも軍事的競争などする余裕などありません。

全く反対の事を言いふらし国民を騙す危険な手口

右手を挙げ「戦争する国にはしません。憲法9条を改正するつもりもありません。」と叫び、左手で「同盟国アメリカの戦争に加担する集団的自衛権の行使は容認します。」これは天地神明に誓って悪い事は致しません」と言いながら「賄賂はいただきます。」と言っているのと同じことです。この手口は悪質で歴史的に汚点を残す例が多くあります。

①戦前満州国をでっちあげるため五族協和の繁栄やアジアの解放を大宣伝しながら、同時に軍靴を履いて鉄砲をかついだ日本兵が「焼きつくす」「殺しつくす」「奪いつくす」という三光作戦を行ない、言い尽くせない犠牲をアジアの人びとに強いた。その結果は日本自らも国土の焼失と310万人の犠牲者を出してアジア太平洋戦争がおわった。

②アメリカはベトナム戦争に際して「共産主義から自由世界を守る」「自由と民主主義を擁護」すると、その大義を宣言しました。50万人以上の軍隊を送りダイオキシンをばらまく非人道的な「枯葉作戦」まで行なった。しかしアメリカ軍は「独立と自由ほど尊いものはない」というホーチミンの言葉を背に浴びながら1974年4月30日サイゴンから敗北撤退。

③2003年のイラク戦争でもアメリカはイラクが大量破壊兵器を持っていると戦争の「正統性」を世界にあれだけ宣言して無差別爆撃で無辜の市民を犠牲にした。しかし戦闘はおわったが、大量破壊兵器は無かったと。

憲法を守るのは国民の自覚と努力

憲法第12条は「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない。・・・」と謳っています。国民ひとり一人が主権者となって立ちあがる。そこに核心があります。全国で街に出て手を繋ぎあって声を挙げプラカードを掲げることです。そして安倍内閣を退陣させることです。

米大統領に吊し上げられた ピアソン、カナダ首相

時に1965年4月3日、アメリカ訪問中のカナダ首相ピアソンはジョンソン米大統領に昼食を招かれました。昼食中ジョンソンはピアソンをテラスに腕をつかんで連れ出し「首相のコートのえりをつかみ、もう片手を天に向けて振り上げ約1時間にわたり吊し上げる」という事件が起こりました。事の起こりは前日にピアソン首相が米国の大学でベトナムへの北爆を間接的に批判したことにジョンソン大統領が怒って吊し上げたということでした。

さて、大男ジョンソンに吊し上げられたピアソンとカナダ国民はどうしたでしょう。カナダは米国と隣接し国力は10分の1です。「たとえ弾圧をうけようと、米国にもいうべきことはいう」というのがその後のカナダ首相と国民の信念でした。外務省の建物はピアソン・ビルと呼ばれており2003年のイラク戦争でも最後まで参加を拒否しました。憲法9条を擁しながらイラク戦争が始まるといち早く賛意を表明、自衛隊を派遣した小泉首相とは天と地の差です。それは平和と戦争に関する国家主権についてはアメリカが大国といえども正々堂々ものをいう。またカナダ国民はピアソンをみじめな首相として非難するどころか国民が選んだ首相を誇りに思っています。大国に屈しない国民の魂は国民主権の健全さを示し、カナダの政治社会に灯台の役割となって引き継がれているのです。

少しは日本の首相も見習ってもらいたいものです。アメリカに恫喝され普天間基地の「県外・国外」を断念する民主党。相も変わらず靖国参拝・慰安婦問題・侵略戦争否定でアジア諸国に政治大国ぶる自公政権。強いものにペコペコ頭を下げ、アジアの人々には侮り大国ぶる日本の政治姿勢が戦後一貫して続いている。外国から見ると国際政治の舞台では日本政府は三流国に写ります。しかしこのような政治家を選んだ日本国民はそれ以下に見られます。日本が侵した戦前の過ちを反省しない限りアジアの人々との友好関係は築けません。

安倍内閣の集団的自衛権の行使容認を国民主権の行使で粉砕していきましょう。

茨城県平和委員会 学習かわら版 No. 16

平和かわら版No691(2014. 7. 25号)別刷り

学習運動委員会責任者：川又 俊水

学習かわら版担当：伊達 郷右衛門